

平成 22 年 6 月定例会 産業経済委員会 6 月 17 日

◆帆苅謙治委員 私は産業経済委員会に十数年入っていると思いますが、それこそ細かい話なのですが、今、新潟ふるさと村はどうなっていますか。

◎橋本一浩交流企画課長 新潟ふるさと村の現状でございます。まず、平成 21 年度の入館者数でございますけれども、169 万 9,800 人ということで、対前年度比で 3.2 パーセントの増でございます。ご存じのように、昨年は大観光交流年ということもございまして、多くのかたがた、とりわけ県外のかたがたから多くおいでいただいたところでございます。

それから、経営の状況でございますが、今月末に株主総会がございますので、平成 21 年度決算は見込みでございますけれども、純利益で 87 万円の黒字ということでございます。平成 20 年度に増資を行いまして、現物出資をした結果、債務超過を免れました。結果として、企業が大きくなった関係で、特別損失などが発生しましたが、経常利益では 2,457 万円の黒字、純利益で 87 万円の黒字という決算見込みでございます。

◆帆苅謙治委員 今の状況だと、健闘しているという理解でいいわけですね。ただ、県が 10 億円だか幾らだか出してましたよね。それはそのままになっていますか。

◎橋本一浩交流企画課長 県からの融資でございますが、平成 5 年度以降、毎年度 10 億円の無利子融資を継続しておりました。そういった形が長期にわたって固定化していることにつきまして、外部の有識者のかたがたからの善処すべきであるという御意見を受けまして、平成 20 年 2 月の定例会におきまして、先ほどもちょっと触れましたが、土地と建物が県有であったものを現物出資という形で、新潟ふるさと村に出資することで、財務状況は改善しました。その結果として、キャッシュフローに余裕が出るということで、毎年の貸付額を 10 億円から減らしていくと。9 億 8,000 万円、9 億 6,000 万円、今年度は 9 億 2,300 万円ということで、毎年減らすと。額の幅は小さいので、根本的な解決にはまだなっていないのですが、そういう意味では一步一步正常な状態に近づけていきたいということで、今、取り組んでいるところでございます。

◆帆苅謙治委員 その当時、国から来た部長が、これ一つで2年も3年も謝って国に帰っていったものだから、何とかうまくやってもらいたいと、重大な関心を持って産業労働観光部も取り組んでいただきたい。

もう一点だけ聞きます。今、沢野委員が観光面、健康ビジネス関係の話聞いていましたけれども、私もそういうたぐいのことは分かりませんでした。しかし、胎内市選出の富樫議員は一生懸命やっているみたいで、三浦雄一郎のせがれだとか、大学の先生だとかを連れてきて、どこから金を払っているのかよく分かりませんが、健康関連の講義をしてもらったり、村杉温泉に行つて、山歩きをしたり、魚捕りをしたりして、そして楽しい風呂に入ってお酒を飲むと、こういうツアーなどもやっているようです。私も、セレモニーなのか事前の準備会なのでしょうか、来てほしいと言われて行ったわけですが、民間のかたも大勢おられたし、県の職員も一人来ておられました。そういうやる気のある旅館とか地域とか、健康ビジネス連峰政策そのものの内容を私はよく見ていないけれども、そういう支援というか、そういうものもあるのかなのか分かりませんが、充実していけば、もっといい展開が開けるのかなという思いがいたしました。

もう一つだけ聞きますが、私は議長ということで、イベントなどに出席させてもらいました。私の地元に関係があるので何なのですが、観光とか物産とかのイベントを、たまたま私の地元の人間が中心になって、東京の豊島園でやりました。そしたら、西武グループの総帥ですね、株式会社西武ホールディングスの社長も来たり、当然、株式会社豊島園の社長も来られました。知事も来てくれましたし、非常にいい関係ができたような気がしてなりません。例えば、新潟県のお米、あるいは酒を持って行って、私の地元であれば、ヤスダヨーグルトを持って行く。そうすると、その段階でホテルを含めたグループとして、ヤスダヨーグルトを使うことに決めたとか、あるいは、米を使うことを商談として決めたとか、そういうものがいっぱい出てきているのです。けれども、だれかが言ったように、新潟県はまだまだ宣伝が下手だと。こういうことであるならば、これに関しては、今日はお休みになっておられるけれども、観光局長とか、観光振興課長以下、一緒に窓口になってやってくれましたが、私がお願いしたいのは、やっぱり農林水産部だとかそういうところとの連携とか、あるいは、宣伝上手なのは産業振興課長あたりだと思うのだけれども、そういうなんていいですか、商談の中に県の職員が入るのか入らないのか、いいのか悪いのかは別にして、フォローするようなシステムづくりというか、そういうものが重要だと思います。そういうものも踏まえて、要望も兼ねますけれども、一連のことについてコメントを頂ければありがたいと思います。

◎佐藤猛行産業振興課長 前段でお話のありました三浦豪太さんなどをお呼びするような形の、薬ぜんなどを使ったツーリズムについてでございますが、先ほど沢野委員の御質問にお答えするときに触れさせていただきましたが、新潟県健康ビジネス協議会といった民間団体ができましたが、民間団体の議論の中でこうした取組をしていくといいのではないかとといったことで、生まれたプログラムの一つと聞いております。具体的には、主催しているのは個別の旅館でございますが、新潟県健康ビジネス協議会も企画協力ということで入っているところでございます。こういったツーリズムについては、もともとほかの地域でやっていた取組が、別の地域でも行われるようになるといったような横の展開も出てきたところであると考えております。

また、御指摘いただきましたいろいろなアドバイスですとか、ほかにこういう事業も使えるんじゃないかといったような指導や助言等につきましては、健康ビジネス連峰政策はもちろんでございますが、その他の取組につきましても、NICOですとか、県工業技術総合研究所と連携を図りながら、いろいろやらせていただいているところございまして、こういったことに加えてPR展開といった点につきましても、重点的に今後ともやらせていただきたいと考えております。

◎長谷川誠副部長(産業労働観光部) 委員からお話のあった、豊島園での新潟フェアについては、6月1日にオープニングフェアを行い、7月まででしょうか、やっております。そういった事例、ヤスダヨーグルトですとかコシヒカリをグループのホテルに導入する話が進んでいるという具体例を頂きました。農林水産部に限らず、そういった民間の総合的なグループとの連携を強めるといったことをきちんと検討してまいりたいというふうに考えております。